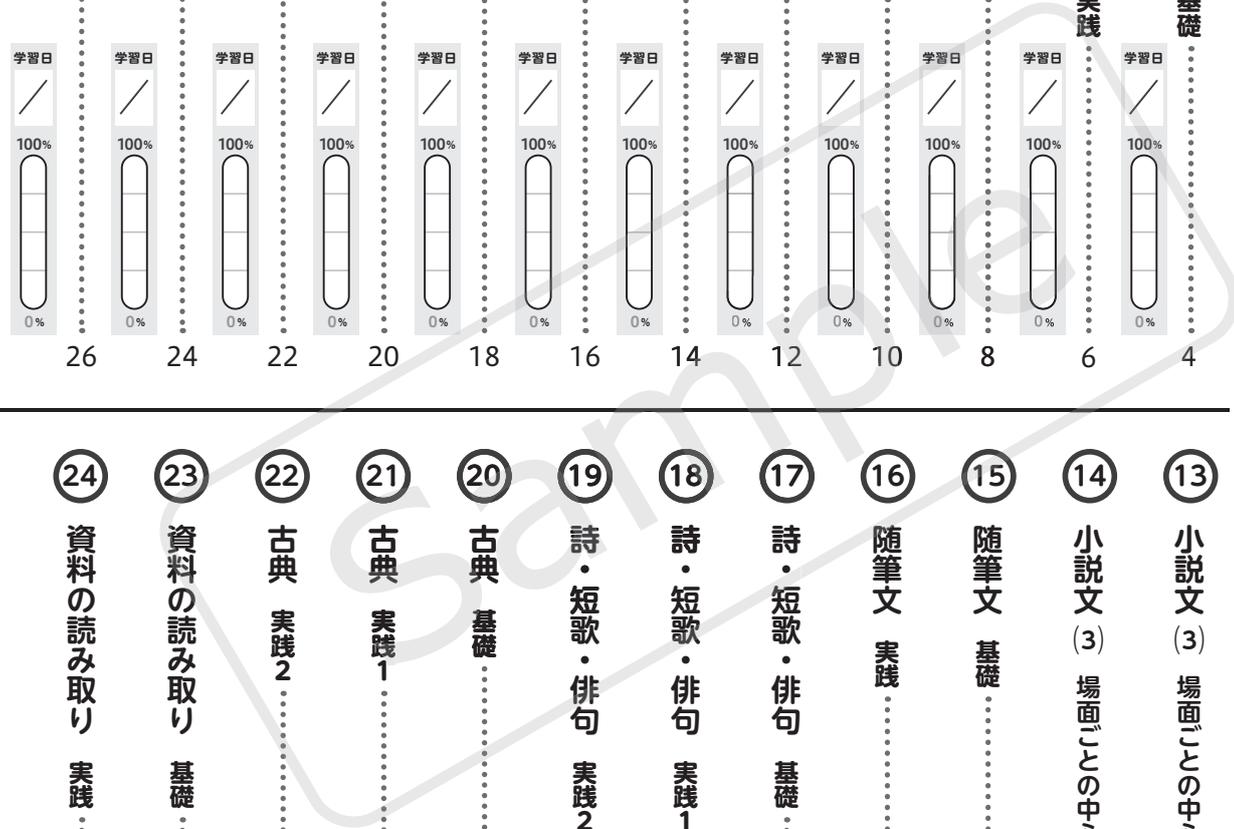


①	説明文・論説文 (1)	指示語・接続語	基礎	4
②	説明文・論説文 (1)	指示語・接続語	実践	6
③	説明文・論説文 (2)	事実と意見	基礎	8
④	説明文・論説文 (2)	事実と意見	実践	10
⑤	説明文・論説文 (3)	段落	基礎	12
⑥	説明文・論説文 (3)	段落	実践	14
⑦	説明文・論説文 (4)	要旨	基礎	16
⑧	説明文・論説文 (4)	要旨	実践	18
⑨	小説文 (1)	登場人物・場面	基礎	20
⑩	小説文 (1)	登場人物・場面	実践	22
⑪	小説文 (2)	心情	基礎	24
⑫	小説文 (2)	心情	実践	26

⑬	小説文 (3)	場面ごとの中心的な内容	基礎	28
⑭	小説文 (3)	場面ごとの中心的な内容	実践	30
⑮	随筆文		基礎	32
⑯	随筆文		実践	34
⑰	詩・短歌・俳句		基礎	36
⑱	詩・短歌・俳句		実践1	38
⑲	詩・短歌・俳句		実践2	40
⑳	古典		基礎	42
㉑	古典		実践1	44
㉒	古典		実践2	46
㉓	資料の読み取り		基礎	48
㉔	資料の読み取り		実践	50



23

資料の読み取り

グラフの読み取り

基礎



ポイント

グラフの種類と注目する点

先生

グラフには、主に折れ線、棒、円、帯、の四つの種類があるね。

生徒

はい。数値の変化の推移がわかりやすいのは折れ線グラフ、項目ごとの数値の大小を比較しやすいのは棒グラフ、全体に占める割合が一目でわかるのは円グラフ、円グラフよりも項目別の割合のちがいを比較するのに便利なのが帯グラフです。生徒会のアンケート結果などいろいろなグラフを使い分けています。

先生

そうだったね。今回は、そこから踏み込んで、その読み取った内容からどのようなことが考えられるかを学習しよう。

たとえば図書室の利用者数について学年別に統計を取ったグラフがあったとして、そのとき、中学3年生の利用者数が、10〜12月が一番大きかったことがわかるでしょう。同じ学年の他の月や他の学年と比較してもかなり多かった場合、どのようなことが言えるかな。

生徒

えーと……、私が図書室に行ったとき、3年生の先輩は机の前で勉強していた気がします。受験前なので、勉強や調べものでの利用が多いのかもと思いますが……。

先生

そうだね。図書室を自習のために利用することもできるだろうし、また、入試の課題作文の資料もあるから、それを利用するかもしれないね。

生徒

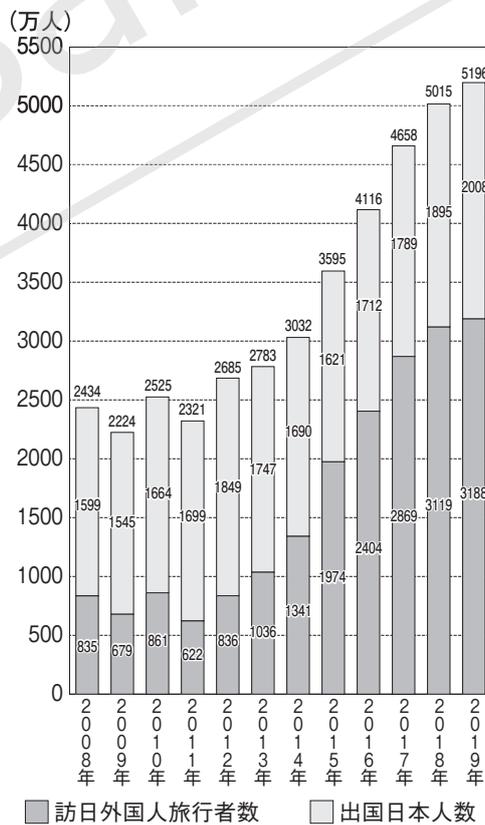
数値の大きいところに着目して、その理由を考えることが大切なのですね。

チェック

できるかどうか確認しよう

次のグラフからどのようなことが考えられるかをまとめた文の「」にはあてはまる言葉を答えなさい。

〈訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移〉



(出典：観光庁)

訪日外国人旅行者数・出国日本人数の総数は

右肩上がりに増え続けている。

内訳を見ると、そのうち

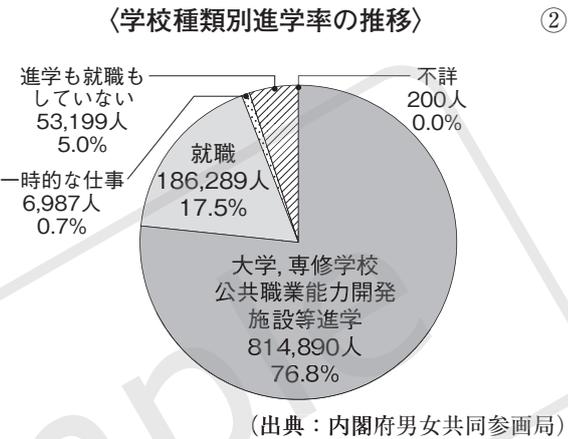
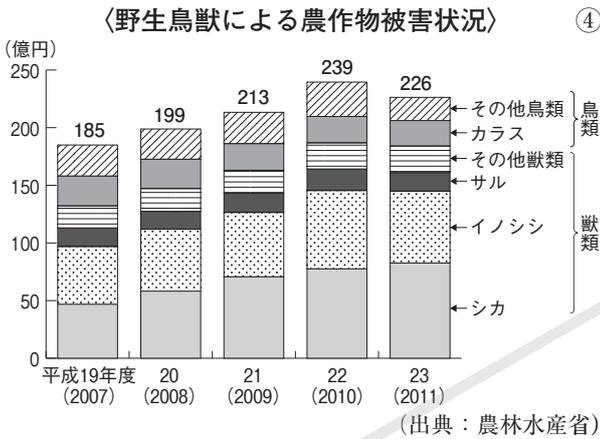
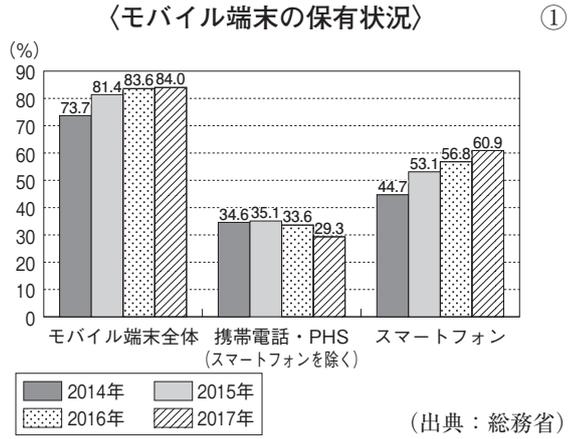
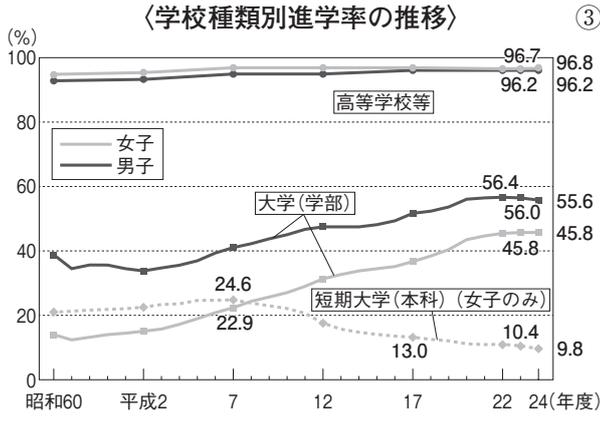
五年間で約四倍に増えており、その後も増加し続けている。

日本で一時期

を対象とした免税店やサービスが増えた背景には、この外国人旅行者数の急増があると考えられる。

数値から増減を読み取るだけでなく、項目ごとの数値を比較することによってそこから考えられることを読み取ることが大切です。

トレーニング
 次のグラフを見て、あとの問いに答えなさい。
全部でできるまでやろう



セルフレビュー グラフを正しく読み取れたかな？

100%
0%

①のグラフから読み取れることとして、適切でないものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア モバイル端末全体の保有率は増加傾向にある。
 イ すべての種類のモバイル端末の保有数が増えている。
 ウ 2014年にはスマートフォンの保有率は半数以下だったが、2017年には6割を超えた。
 エ スマートフォンを除くモバイル端末の保有率は減少傾向にある。
 オ 特に高校生・大学生はスマートフォン保有率が上がっている。

②と③のグラフからどのようなことが考えられるかをまとめた次の文の「」にあてはまる言葉や数値を答えなさい。

平成24年は高校進学率が男女ともに「」%を超えており、また、30年の高校卒業者の進路としては、進学が「」%と、進学率が高くなっている。特に平成2年以降女子の「」への進学が増え、平成8年以降短期大学を上回っている。この背景には、男女雇用機会均等法の施行などで女性の社会進出が進み、「」の格差が縮まっていることがあるといえよう。

④のグラフを見て「」にあてはまる言葉を答えなさい。(同じ言葉を二度使ってもよい。)

農作物への被害が特に多いのは「」と「」で、特に「」の被害は年々増え続けている。